

講義名	大学と社会		
科目区分	教養一般		
担当教員	小畑 徳彦		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2

主題と概要

大学はどのようにして誕生したのか、各時代、各国の社会の中で大学がどのような役割を果たしてきたのか、そして今、日本で大学はどのような役割を果たしており、社会から大学や大学で学ぶ学生にどのようなことが求められているかをさまざまなデータを用いて概観し、最近のトピックも紹介することによって、大学で学ぶことの意義や、何をどう学んだらいいかを考える。

到達目標

現代社会における大学の役割について理解し、大学で何をどう学んだらよいかについて、各自の考えを形成する。

提出課題

毎回課題を出し、授業時間内に書いて提出してもらい、レポートを2回程度提出してもらい。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回の課題については、次回の講義の際に講評・解説をする。レポートについても、いくつか紹介して講評する。

評価の基準

毎回の課題60%、レポート40%

履修にあたっての注意・助言他

・授業で学んだことを覚えるのではなく、それを手掛かりに自分で考えることが重要です。毎回の課題もレポートも、授業の理解度と授業で取り上げたテーマについて自分でどれだけ考えたかを問うようなものとします。

教科書
・使用しない。

プリント資料及び参考文献

毎回レジュメと講義スライドをRYUKA PORTALで配布する。
 ※参考文献>
 1. 参考書籍『大学とは何か』岩波新書 820円
 2. 天野都夫『大学の誕生（上）』中公新書 940円
 3. 天野都夫『大学の誕生（下）』中公新書 980円
 4. クリストフ・シャルル/ジャック・ヴェルジェ『大学の歴史』文庫クセジュ 1050円

授業計画

1. 大学とは何か？
2. 日本の大学制度の歴史（1）明治維新～大学令以前
3. 日本の大学制度の歴史（2）大学令～第二次世界大戦後の教育改革
4. 日本の大学制度の歴史（3）高度成長時代～現在
5. ヨーロッパ大陸における大学の誕生と発展
6. 英米における大学の誕生と発展
7. 大学制度の国際比較
8. 大学への進学
9. 大学教育の内容
10. 大学生と就職
11. 大学の費用と費用負担
12. 大学の国際化
13. 大学とその他の教育機関
14. 流通科学大学と社会
15. 大学は何をしたらいいのか？

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回のテーマについては、シラバスに掲げた参考文献や、その他授業で示す参考文献を読んで予習してください。（各回1時間）
 毎回の授業の後、配布したレジュメやプリントとスライドを利用して各回のテーマについて復習してください。（各回3時間）
 レポートは成績の40%を占めるので、講義内容を復習し、参考文献を読むなどしてしっかりと考えて書き、期限までに提出してください。（レポートごとに5時間）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

さまざまなデータに基づいて、現代日本の大学の特色を理解し、大学がどのような役割を果たしているのか、大学で学ぶことにどのような意味があるのかをみなさんと一緒に考えてみたいと思います。大学に関しては、参考文献としてここに挙げたものをはじめ、さまざまな本が書店に並んでおり、また大学図書館にもあります。授業を聞くだけでなく、ぜひそういった本も読んで、大学で何をどのように学んだらいいかを自分で考え、有意義な学生生活を送る助けにしてください。また、大学入試の改革、就活ルールの変更等、大学に関する話題が新聞にぎわっています。これらの問題は授業の中でも取り上げますが、自分でも新聞を読むなどして大学をめぐるさまざまな問題について考えてみてください。